

○高部啓子* 猪又美栄子** 林 隆子*³ Catherine Cerny*⁴

(*大妻女大 **昭和女大 *³広島大 *⁴ Virginia P.I. and S. U.)

目的 日本では公立，私立を問わずほとんどの中学校，高等学校で制服が採用されている。制服採用の是非については従来から議論があったが，近年「子どもの権利条約」の批准を契機に，子どもの人権を守るという立場からも再度問われ始めている。他方，従来一般的に学校制服を採用していなかったアメリカでは，教育的効果を期待して，小，中学校で採用され始めているという。そこで本研究では，まず学校制服を着用してきた大学生が制服に対してどのような意識を持っているかを明らかにすることを試みた。

方法 1997年9～12月に広島及び東京の大学生，男子101名，女子419名を対象に，学校制服に対する意識について40項目のアンケート調査を実施した。回収率は100%である。この資料に単純集計，クロス集計，因子分析を行い検討した。

結果 ①男女ともに約65%の学生が「学校制服が好き」と回答している。②単純集計結果では，男女がほぼ似た傾向を示すが，制服の教育的効果，精神的発達に与える影響，手入れやファッション性に関する項目で多少の差異が見られた。③制服の好き嫌いとのクロス集計結果では，男子では着心地，精神的発達，格好良さなどに関する項目でのみ有意なのに対して，女子ではほとんどの項目で有意となった。④因子分析からは制服の教育的効果を表す因子，制服の弊害を表す因子などが抽出された。